

木島平村 公共施設等総合管理計画(概要版)

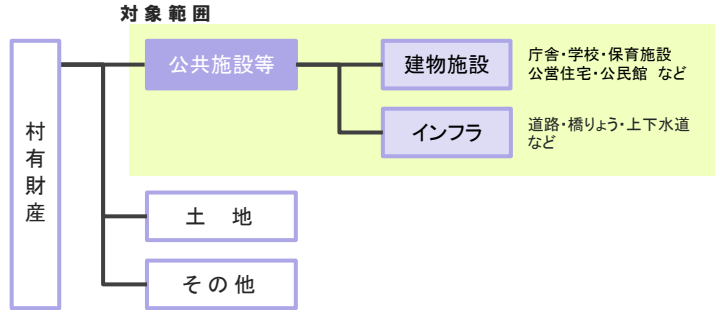
木島平村では、これまで学校・公民館などの公共施設、道路・橋りょう・上下水道といったインフラ資産の整備を進めてきました。今後、これらの施設が老朽化から大規模改修の時期を迎え、多額の財政負担が必要となってきます。

そこで本計画は、本村の公共施設等の状況を客観的に把握・分析し、今後の更新費用の見込みを明らかにするとともに、公共施設マネジメントの基本方針などを公共施設等総合管理計画としてまとめたものです。

計画の目的等

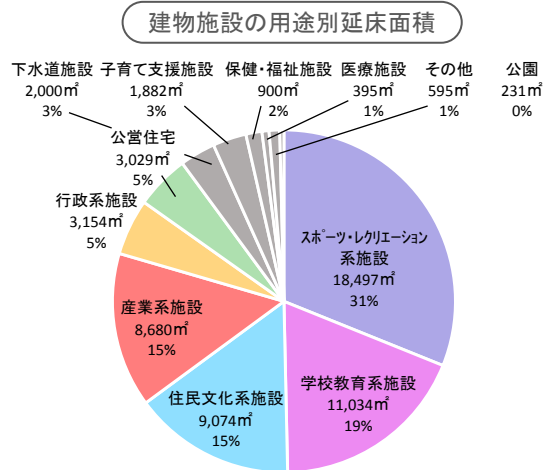
2017年度から2036年度の20年
建物施設+インフラ資産が対象

- 本計画では、村が保有する「建物施設」と「インフラ資産」を合わせた「公共施設等」を対象とします。(インフラ資産は道路、林道、橋りょう、上水道、下水道を対象)



建物施設は 109施設 約59,472㎡
うちスポーツ・レクリエーション施設が30%で最多

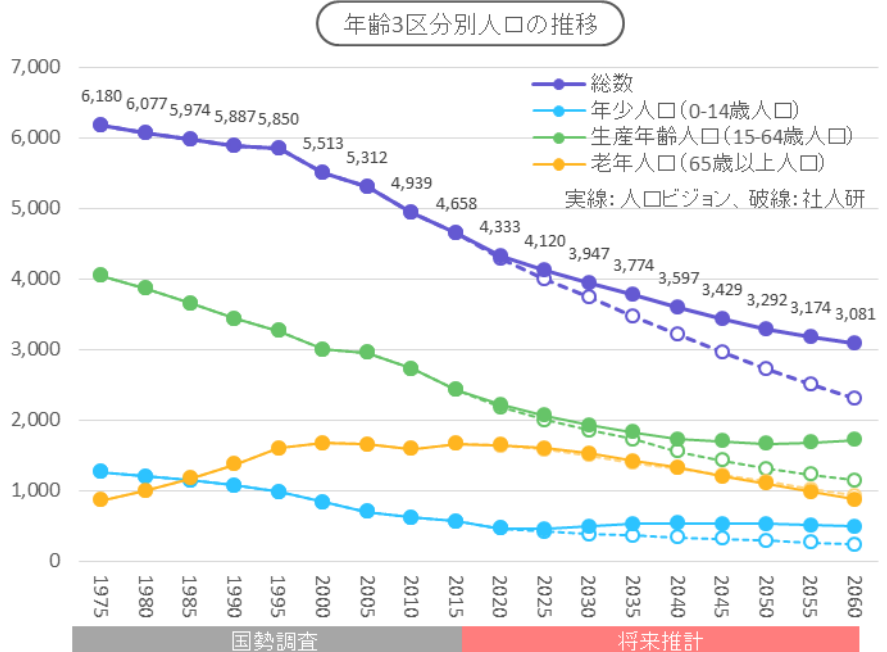
- 公共施設等の内建物施設では、150棟、109施設を保有しています。全施設の合計延床面積は59,472㎡です。(2016年4月1日時点で村が保有している施設)
- 用途別では、スポーツ・レクリエーション系施設が18,497㎡と最も多く、全施設の30%を占めています。
- その他の主な施設は、学校教育系施設、産業系施設、住民文化系施設があり、上位4分類で全体の延床面積の80%以上を占めています。



本村の状況 一人口の将来展望

2015年 4,658人
→2060年 3,081人
少子高齢化の進行

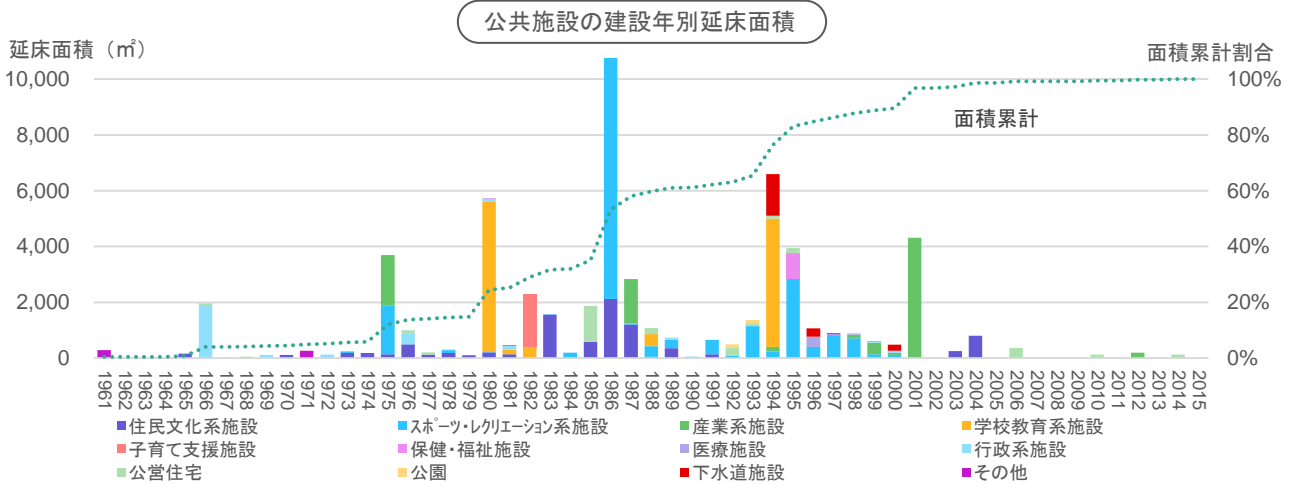
- 本村の人口は、1955年に村が誕生して以降、一貫して減少傾向であり、2015年の時点で4,658人となっています。
- 本村の将来展望を踏まえた「木島平村人口ビジョン」による将来展望人口では、2060年に3,081人になると見込んでいます。



公共施設の課題 ー施設の老朽化ー

築20年～39年の施設が67%と大半を占める
人口1人あたりの施設保有面積は全国平均の3.7倍

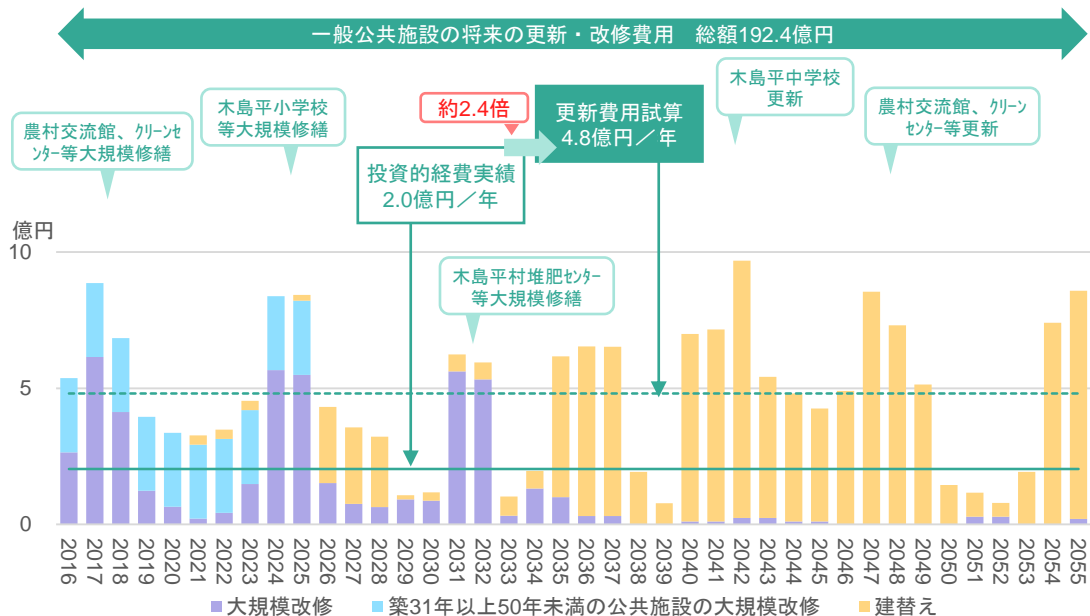
- 築20年未満の比較的新しい施設は約20%と少なく、築20年～39年の施設が約70%と大半を占めています。
- 老朽化に伴う大規模改修や建て替えが同時期に集中することが予測されます。
- また、本村の人口1人あたりの公共施設保有面積は約12.8㎡/人、全国平均は3.42㎡/人であり本村は全国平均の3.7倍です。



公共施設の課題 ー更新費用ー

今後40年間の更新・改修費用は 一般公共施設：約192.4億円（年間4.8億円）
観光施設：約116.8億円（年間2.9億円）

- 現存するすべての施設を維持し、更新した場合、必要な費用は2016～2055年までの40年間で約192.4億円と試算されます。1年あたりに換算すると約4.8億円となります。
- 本村の公共施設に係る投資的経費の実績は年平均2.0億円であり、今後はその約2.4倍の費用がかかることが予想されます。
- 観光施設の40年間維持・更新し続けた場合に必要となる更新・改修費用は40年間で約116.8億円と試算されます。1年あたりに換算すると約2.9億円になります。



現状の問題点 と 公共施設マネジメントに関する基本方針

少子高齢化による
財政規模の縮小

施設保有量
の増大

築年数の経過
による老朽化

観光施設に対する
財政負担

現状の公共施設等をそのまま維持することはできない

考え方

- 品質の課題： 老朽化した施設の補修・更新だけでなく、有効活用されている施設の計画保全や長寿命化に目を向ける必要があります。
- 供給の課題： 人口変動等による余剰施設の発生時には、施設の除却や統廃合等の検討が必要です。また、不足する施設への対応も必要となります。
- 財務の課題： 限られた財源のなかで保持していく施設の維持管理や課題解決のための施策、施設の新築・建て替えに際して起債した債務の返済を行う必要があります。



基本方針

- 既存の公共施設を適正に利用すると共に、次世代に「供給」すべき施設を選定します。
- 現時点で「品質」が十分でない施設は「供給」との調和を図りつつ迅速な対応を行います。
- 長期的な視点から必要な「品質」の確保には「財務」からの支援を計画的に行い、かつ効率的な「供給」目標の実現することで投資の選択と集中を行い「財務」負担の削減を行います。

「供給」の目標と計画期間

目標

2036年まで（今後20年間）に総床面積の5%削減を目指します。

目標の設定根拠

- 本村は、平成22年度に3校あった小学校を校に統合、また平成24年度には3園あった保育所を1園に統合しており、統合、集約化が見込まれる大規模施設については既に実施済みの状況です。
- また、最も延床面積の多い公共施設であるパノラマランド木島平は、村の観光誘客にとって拠点施設であるとともに、東京都調布市との姉妹都市交流にとっても非常に重要な役割を果たしています。
- その他、大規模施設をみても中学校、体育館、保健センター、農村交流館、浄化センター、堆肥センターなど村民生活に欠くことのできない機能を有する施設が多く、人口減少に伴い1人あたり総延床面積は増加するものの、削減目標としては19年間で5%の削減を目指します。

施設類型ごとの基本的な方針

住民文化系施設

- 集会施設は、すべての施設で耐震診断を実施しており、建築年度に関わらず耐震改修が必要との診断結果が出ています。今後使用していく区において耐震化工事を希望する場合は、村が一部補助を行い実施していく方針です。
- 農村交流館は、3階宿泊施設は少数宿泊における採算性などの課題も多く、施設のあり方も含め検討していきます。

行政系施設

- 役場庁舎は、現在周辺に保健センター、若者センター(図書館を含む)体育館、社会福祉協議会、デイサービスセンターがあり、施設の複合化などを視野に入れた新庁舎整備のランドデザインを行っていきます。
- 消防施設は、平常時、災害時共に消防団にとって拠点施設となるため、今後も施設品質の維持に努め、使用する消防団員より逐次報告を受けて修繕を行っていきます。

産業系施設

- 農産物直売所たる川は、道の駅 ファームス木島平が本施設に近接して整備されたなかで、両施設とも農産物直売所機能を備え、同じ公共施設でありながら競合している状況であるため、施設の集約化などを検討していきます。

学校教育系施設・子育て支援系施設

- 学校教育系施設・子育て支援系施設はすべて災害時の拠点施設としての重要な役割を持っており、今後も定期的な点検を行い、長期に利用できるよう管理を行っていきます。
- 木島平中学校は、平成32年度に長寿命化改修工事を行う予定です。

スポーツ・レクリエーション系施設

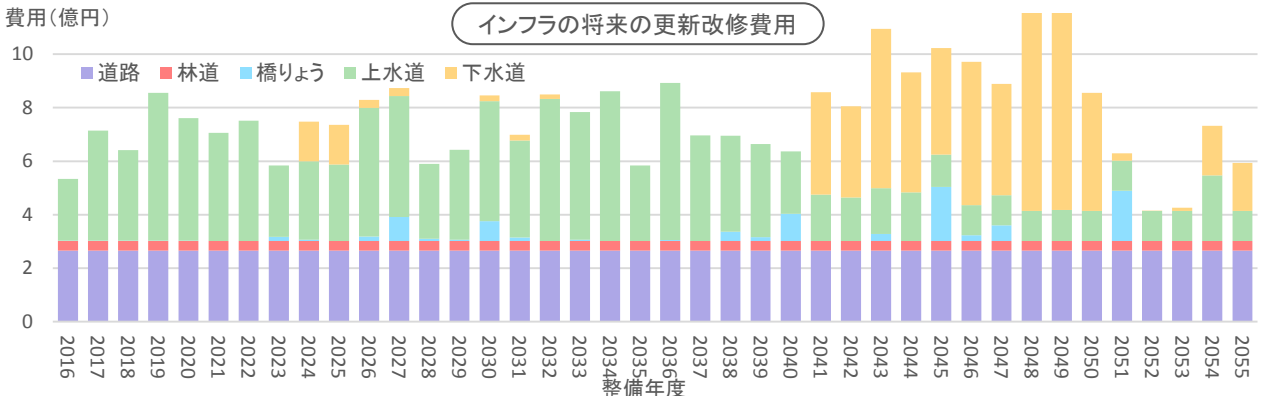
- 馬曲温泉は、源泉湯量の減少対策や室内風呂と露天風呂の位置関係の改善など利用しやすい施設とするため改修計画を立て、平成33年度に基本設計を行う予定です。
- パノラマランド木島平は、本村の主要な誘客拠点施設として重要な役割を持っていることから、計画的な改修を実施し、長期に利用していきます。
- ホテルシュエネスベルクは、現状の施設利用率が極めて低い状況にあるため、今後公共施設及び誘客施設としての必要性を整理します。

公営住宅

- 若者住宅の5棟については、交付金などの活用をしていないため、希望者がいれば払い下げを実施する方針です。
- 平成28年度に1棟2戸の共同住宅を新しく新設しています。

インフラ施設の現状と基本的な方針

- 道路、橋りょう、上下水道等のインフラ施設についても今後40年間に必要となる整備費を試算した結果、40年間で307.4億円と試算されました。
- インフラ資産は住民の社会生活の基盤となるものであり、整備が進んだとしても、それらを切り売りすることは一般的に不可能であるため、計画的な修繕、更新計画の下、将来にわたり適切に維持していく必要があります。



基本方針

- 道路: 計画的かつ予防保全的な維持管理を行い、将来に向けて長期利用できるよう管理します。
- 林道: 道路と同様に、計画的かつ予防保全的な維持管理を行い、将来に向けて長期利用できるよう管理します。
- 橋りょう: 「木島平村橋梁長寿命化修繕計画」に基づき架け替え、保全費用の削減を図っていきます。
- 上水道: 点検による施設の状況把握に努め、更新計画を策定し、適切な時期に更新を行います。
- 下水道: 木島平浄化センターは、平成7年度に耐震化工事を実施しましたが、その他必要な改修工事は費用が高額のため、建替えを含めて2020年度以降に施設のあり方を見直す方針です。